横浜市立 市沢小学校　　平成28年度版　中期学校経営方針　（平成28～30年度）

学 校 概 要				
創立　143　周年	学校長　森　愛 子	副校長　佐藤　多佳子	学期　2　学期制	児童・生徒数　406 人
学級数 一般級：　13　個別支援級：　2		主な関係校：西谷中学校		

学 校 教 育 目 標

市沢に生き、ともに輝く子をめざします

知　自ら問題を発見し、解決する子を育てます。
徳　友達を大切にする子を育てます。
体　心も体もたくましい子を育てます。
公　市沢・横浜に働きかける子を育てます。
開　世界の人々を愛する子を育てます。

学校の特色	□平成25年に創立140周年を迎えた、地域によって支えられ地域と共に歩んできた学校である。地域の方々は学校に大変理解があり、図書ボランティアや学援隊等の活動にも協力的である。□神田公園や市沢市民の森、ホタルが観察できるたちばなの丘公園等、生活科や「横浜の時間」の学習に活用できる材が豊富である。□全教職員で児童にかかわる体制ができている。また、授業づくりに意欲的に取り組む職員が多く、学び合う姿勢が生まれつつある。■児童は大変素直で子どもらしく人なつこいが、自主性や社会性はより伸ばしていきたいところである。また、学習への姿勢もよい傾向にあるものの、実際の学力に結びついていないところがある。■学習状況調査の結果からは学校として基礎基本の定着に一層取り組む必要があることがわかった。

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標

○子ども一人ひとりを大切にし、活力と魅力にあふれた学校づくりをめざします。
・個の学習状況を把握し、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
・問題解決的学習を意識して、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。
・一人ひとりが互いのよさを認め合い、自己有用感のある楽しい学校生活を過ごせるようにします。
・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
・まちの「人」とのつながりや中学校との連携を意識し、豊かな体験を通して、地域全体で、まちを愛し活きる力のあふれる子どもを育てます。

小 中 一 貫 教 育 の 取 組

西谷中学校　ブロック：**西谷中学校　川島小学校　鶴ヶ峯小学校　市沢小学校**

9年間で育てる子ども像	○基本的な生活習慣力を培う心と身体をもつ子どもを育成する。 ○基礎・基本を大切にし、自分の力を伸ばそうとする子どもを育成する。
自校の具体的取組	○公開授業研究会を開催することにより、小中の学習のつながりや、効果的な学習方法を研鑽する。 ○児童生徒指導上の情報交換を密に取り、9年間の生活習慣や規範意識の育成に努める。 ○総合的な学習の時間の授業研究を通して、人や地域と関わりながら共同的な学びのできる児童の育成を図る。

重点取組分野	取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 担当　学力向上	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で学ぶ意欲の向上を目指す。	○基礎基本の定着 ・スキルタイムの設置 ・学習習慣の定着 ・朝読書
豊かな心 担当　道徳教育推進担当	正しく善悪を判断し社会のルールを守る規範意識や礼儀、他者への思いやりを育むとともに、自己有用感をもつことができるように努める。	・道徳、人権教育の推進 ・全校集会での異学年との活動の導入 ・生活科「横浜の時間」の充実
健やかな体 担当　体育・保健部	心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢の育成を目指す。	○学校生活を通して、自分や友達の健康や体の発達に関心を持たせ、進んで健康づくりをしていく。 ・学校保健委員会や保健学習、保健指導を中心に、望ましい生活習慣を身につける取組を推進する。 ・スポーツ広場や体育授業で多様な運動に触れる経験を積み、体を動かす楽しさを味わわせる。
児童生徒指導 担当　児童指導委員会	きまりや挨拶の浸透を図り、気持ちよく規律ある生活習慣・態度を養う。また、個々の児童の実態を把握し児童が安心して過ごせる環境を整える。	・「市沢っ子のきまり」を年度初めに学級で読み合わせ、さらに常時掲示しておくことで、全校で決まりの意味を理解し守っていくことができるようにする。 ・進んであいさつができるよう、月ごとの「おあしす運動」の重点目標を朝会で確認し、あいさつを呼び掛ける。 ・日常的に児童の情報を共有し共通理解を図る。また、研修により教職員の児童理解への資質を高める。
地域連携 担当　教務部	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校にするために、保護者・地域と協力して様々な教育活動への学習ボランティアの拡充を図る。	・学校からの情報発信の充実を通して、地域との連携を図る。 ・地域の学援隊による見守り活動や、読み聞かせなど学習ボランティアの拡充を図る。 ・懇話会、保護者会の中で様々な意見をいただき、学校運営に活かす。
特別支援教育 担当　特別支援委員会	特別な支援が必要な児童について全教職員で共通理解を図り、それぞれの児童に寄り添った指導を行う。	・ブロック研や人権協議会を中心に日常的に特別な支援が必要な児童についての情報を共有し、支援にあたることができるようにする。 ・特別支援体制を明確にし、手順に沿って計画的に支援教育を推進していく。 ・一般級と個別支援級の連携強化に向けて、交流や職員間の打ち合わせに取り組む。・研修を通して、特別支援についての資質を高める。
担当		

人材育成・組織運営 担当　研修、研究部	主体的な授業改善・業務改善をはかり、職員全体を通して専門性を向上させるために、授業研究会や校内研修を計画的に行う。	○さまざまな研究・研修を通して、授業力、教師力の向上を図る。 ・全職員が交代で得意な教科・領域の講師を務める基礎研を通して、各教科領域の研究を行う。 ・メンターチームを作り、経験の浅い教職員同士が学び合える場を設ける。 ・学年・ブロック研を中心に教材研究・授業研究・児童理解研修、各教科領域経営を行う。